

概 要 報 告

実施期日	令和7年8月4日（月）
部 会 名	中学校 保健体育（体育分野）部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ

『主体的に学習に取り組む態度を育てる手立て
～体育嫌いをなくし、運動好きを増やしていくために～』

提案概要

【単元】E 球技（ネット型）「バドミントン」

【学年】第2学年

【研究の概要】

これまでの研究として、「主体的に学習に取り組む態度を見取る評価の工夫」について、教師側の視点で生徒の学びをどのように評価していくか進めてきた経緯ある。今回の研究では、生徒の視点から「どのような活動をすれば主体的に学ぶ態度が育つか」を軸に研究を展開した。

【研究の実践】

1. 事前アンケートを実施しバドミントンに対する意識調査

- （1）「得意さ」と「好き嫌い」の関係について分析した。
- （2）「主体的に活動できるためにどのような教材があると良いか」を問い、生徒の意見を集約した。

2. アンケートの結果を主体的な活動と関連させて分析

- （1）試合の重視
- （2）技能練習による自己成長の実感
- （3）視覚的教材の活用
- （4）動画撮影やアドバイス活動の有効性
- （5）振り返り活動による学びの定着

1, 2より、試合や実践的な活動を中心にしつつ、技能練習や視覚的な教材の活用、振り返り活動等を適切に組み合わせることで、生徒の主体的な学びをより一層促すことができると考え、これらの要素を授業に取り入れながら、生徒一人ひとりが主体的に学びに向かえる環境を整えた。

【成果】

- （1）アンケートの結果より、バドミントンに対して好意と技術の習熟度が必ずしも一致しない傾向が見られ、個々の関心やレベルに応じた学習環境を整備する必要があると考えることができた。

- (2) 生徒が自ら課題を設定し、適した練習を選択し、実践する時間を設けることによって、課題の自覚から学習行動の実行までを自ら担う経験を通して、主体的に学びに向かう態度を育てることができた。
- (3) 再調査では「普通」や「不得意」と回答する生徒も一定数いたので、「好きだが苦手」「得意だが好きではない」といった中間層への支援は今後の授業改善において重要であることがわかった。

質疑応答

なし

協議の柱及び協議概要

1. 子どもの主体性を育むためのICTの効果的な活用について（小・中学校）
 - ・自分のフォーム動画とデモ動画を比較する。デモ動画があると正しい動きがわかり知識にもつながる。また、過去の自分と比較でき、成長を感じることができる。
 - ・作戦の振り返りに、動画が効果的。球技だとボール持っていない人の動きが見えやすい。
 - ・スローモーションや動画を制止することで、細かい部分が確認できる。
 - ・子ども同士で課題を見付け、解決する時間をつくる必要がある。
 - ・自身のベストプレー（ベストパフォーマンス）を提出させることによって、課題を解決するために考えたり、繰り返し取り組んだりすることができる。
2. ICT以外の方法で子どもの主体性を育む工夫や仕掛けについて（小・中学校）
 - ・アドバイス活動などコミュニケーションの場をつくる。
 - ・練習内容を選択できるような授業準備。
 - ・スモールステップの課題を与える。
 - ・「〇〇作戦」というように子どもに考えさせる。
 - ・ゲームの要素を多くする。
 - ・オフェンスがうまくいくような場の設定やルールの工夫が必要。
 - ・ルールを子ども達に考えさせる。

まとめ概要

今回の研究の視点が自校の生徒だけでなく、地区の生徒の実態を意識して取り組んでいる所が非常に良い取組だった。また、生徒が「主体的に活動するためにはどのような活動や教材があると良いか」という項目に答えることによって、教師自身も生徒の言葉を生かして、どのような授業展開が必要なのか考えられた授業作りだった。

実際の授業では、体育館にコートを6面設営し、それぞれのコートで課題に応じた練習ができる学習環境が整っており、生徒自らが課題を見付けて練習し、試合で実践し、新たな課題を練習するという良いサイクルができていて、課題解決に向けて考える姿を多く見ることができた。

また、授業前に生徒の意識調査を実施し、単元の途中でも生徒の様子を見取り、授業改善に繋げていた。単元を通した「指導と評価の一体化」の理想的な形であった。さらに事後アンケートで生徒の変化を見取り、他の単元に生かしていく方法まで考えることができていた。アンケートでは肯定的な回答だけでなく、中間層や肯定的ではない意見にも目を向け、授業改善に生かしている所も良かった。